

施策番号	4
------	---

施策評価シート（評価対象年度：令和4年度）

基本政策	1	子育て・教育・学び
主要施策名	4	郷土の歴史・文化
5年後のまちの姿	<p>○歴史・文化に触れることを通じて、多くの市民が郷土への関心や愛着を深めています。</p> <p>○歴史・文化に関心を持つ市民による自主的な取組が生涯学習活動や地域の活性化につながっています。</p>	
施策展開の基本的な考え方	<p>行政は、まちの財産である文化財等の保存・継承に責任を持つとともに、その実現のために文化財等の魅力を伝え、その活用を図ります。</p> <p>市民等は、身近なまちの歴史や文化に関心を持ち、その魅力について周りに積極的に伝えることに努めます。</p>	
実現に向けた取組	<p>①文化財の調査と保護</p> <p>②伝統文化の保存と継承</p> <p>③歴史・文化資源を生かした地域の活性化</p>	
施策担当課・係	生涯学習課 文化・文化財係	
施策関係課・係	商工観光課 商工振興係	

I 施策の実施状況

1 施策全体の事業費

	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
事業費（千円）	40,232				
事務事業数	9				
うち、事務事業評価対象	9				

2 成果指標の達成状況

指標	単位	基準値	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和8年度最終目標
国県市指定文化財数〔累計〕	件	100	100					102
伝統芸能等保護活動団体数	団体	10	10					10
文化財施設（奥山荘歴史館、黒川郷土文化伝習館、シンクルトン記念館、胎内市美術館および桃崎浜文化財収蔵庫）の入館者数〔年間〕	人	11,564	8,358					12,000
成果指標による現状分析	文化財施設入込数については、コロナ禍による影響で最終目標を下回っている。シンクルトン記念館と桃崎浜文化財収蔵庫は予約制である。奥山荘歴史館は土日祝日の開館であるが、「板額の宴」等イベントによる周知化により、昨年度より入込数が増加している。							

3 施策の進捗状況

達成度	○概ね順調
評価の理由	国県市指定文化財数については目標の98%以上を達成し、伝統芸能等保護活動団体数についても目標値の100%を達成・維持している。文化財施設の入込数については、コロナ禍の影響で減少している。

4 取組の状況と今後の方向性

① 文化財の調査と保護

施策の内容	
<ul style="list-style-type: none"> ・貴重な歴史・文化資源が失われないよう、遺跡の調査・発掘、郷土資料の収集・保管、収集済の文化財の保存・活用を計画的に行います。 ・分散して立地している複数の文化財関連施設で巡回展を開くなど、市民が多くの歴史・文化に触れ、学ぶことができる機会を提供します。 	
これまでの主な取組と実績	
<ul style="list-style-type: none"> ・史跡城の山古墳については、今後、史跡を保存し整備活用へと進めるため整備基本計画を策定し、計画敵に事業を実施している。 ・史跡奥山荘城館遺跡確認調査 ・県営圃場整備事業に伴う発掘調査 ・市内遺跡調査報告書の作成 ・文化財看板の設置（黒川藩屋敷跡・黒川館跡） 	
主な課題と今後の対応	
<ul style="list-style-type: none"> ・史跡の追加指定が進む中、近年十分に維持管理、活用がされていないという課題がある。一方、市民の中には文化財に関心をもつ方も多く、問い合わせも増加傾向にあるので、今後はこうした市民や学校教育現場との連携を図る体制づくりを市民協働という観点から模索していきたい。また、文化財所有者の抱えている悩みや要望などをワークショップ等で把握し、新たな人材、文化財の掘り起こし調査などを計画的に実施し、地域全体を文化財と捉えた文化財保存活用地域計画を策定し、歴史・文化のまちづくりを進めていく。文化財は将来に渡って価値を持ち続けるものであるとともに、地域に住む人々の取組によりその価値を増すものであるため、そうした地域の方々を結びつけるきっかけとなるツールとする。 	

② 伝統文化の保存と継承

施策の内容	
<ul style="list-style-type: none"> ・生涯学習や地域活性化の取組と連携して、各集落に伝わる神楽舞や獅子舞等の伝統芸能や祭り等の行事を継承する団体等への新たな支援策を検討します。 ・学校との連携により、総合学習やふるさと体験学習の中で、子どもが地域の歴史や伝統芸能に触れる機会を増やします。 	
これまでの主な取組と実績	
<ul style="list-style-type: none"> ・指定文化財等の補助として、補助金を交付し、支援した。 ・文化財紹介看板を設置した。 ・昔のくらしや歴史について、学習を深めるため市内外の小中学校に学習券又は利用券を配布した。 	
主な課題と今後の対応	
<ul style="list-style-type: none"> ・高齢化に伴う地域芸能の衰退に鑑み、ビデオ撮影等を実施して保存を図ります。 ・学校教育において、民具を活用した生活文化についての機会を設けます。 	

③ 歴史・文化資源を生かした地域の活性化

施策の内容	
<ul style="list-style-type: none"> ・文化財シンポジウムの開催や説明板の設置、既存の史跡公園等施設の積極活用や ICT を活用した文化財に関する多角的な情報発信に取り組みます。 ・寺・神社を中心とした祭礼等の営み、周りの市街地景観といった周辺環境も含めた文化財を取り巻く歴史的風致の維持等に取り組みます。 ・地域の活性化に取り組む市民団体の支援や地域の魅力発見やモデルルートの作成、語り部の育成等の講座の開設等を通じて、その土地の物語を掘り起こし、発信する取組を支援します。 	
これまでの主な取組と実績	
<ul style="list-style-type: none"> ・城の山古墳見学会や美術館企画展ごとの講演会、烏坂城跡など史跡の説明板設置等を実施した。 ・板額の宴を市民団体の「板額会」とともに規模をコロナ禍だが縮小しながらも実施し、地域の活性化を実現した。 ・美術館では、サポーターズクラブより美観の維持・展示会の補助（受付・椅子の設置・撤去）等ご協力いただいた。また、談話室を用いた小展示や昔語りなどを随時実施してきている。 ・古墳出土品の復元品などを作成し活用した。 ・偉人漫画「板額御前」を制作した。 	
主な課題と今後の対応	
<ul style="list-style-type: none"> ・史跡シンポジウムや説明板の設置、整備活用を図ります。 ・有形登録文化財（古い建造物）を町歩き等に活用し、市民に胎内市のよさをアピールします。 ・歴史講座等を通じて、市民ボランティア活動を支援します。 ・事業運営上の事務の一部を市が担うなど「補助金等のあり方に関するガイドライン」にそぐわない状況が続いているため整理が必要といえます。 ・中条まつりでは露店の減少や山車等の存続も課題となりつつあるので、実行委員会や運営団体とも長期的な視野でまつりのあり方を検討していく必要があります。 ・城の山古墳出土品復元品を学校教育に活用していきます。 	

5 施策の今後の方針

施策方針	◎拡充
施策方針に関する説明	城の山古墳を保存し、適切な調査研究、管理を行いながら次世代へ継承することと、加えて、市民が史跡を通して郷土の愛着や誇りを育み地域の活性化を図ります。地域全体を文化財と捉えた文化財保存活用地域計画を市民の皆さまと一っしょに考えながら策定し、歴史・文化のまちづくりを進めていきます。

II 施策を構成する事業等

事業 コード	事務事業名	R4 事業費	R5		達成度	今後の 方向性	担当課
			当初予算額	うち 一般財源			
140110	文化財保護事業	3,439	5,138	2,864	○	②	生涯学習課
140111	史跡整備事業	865	1,306	865	◎	①	生涯学習課
140112	遺跡発掘調査事業	10,853	14,197	353	◎	③	生涯学習課
140310	中条まつり事業	824	7,468	824	×	③	商工観光課
140320	郷土文化伝習館運営事業	2,484	2,844	2,323	○	③	生涯学習課
140321	郷土文化保存伝習施設（シンクルトン記念館）運営事業	1,032	1,589	1,013	◎	③	生涯学習課
140322	史跡等総合活用事業	7,441	4,512	2,941	△	③	生涯学習課
140323	奥山荘歴史の広場等運営事業	2,221	2,867	2,181	○	③	生涯学習課
140324	美術館運営事業	11,073	13,543	10,269	○	③	生涯学習課

事務事業評価シート（評価対象年度：令和4年度事業）

事業コード	140110		担当課	生涯学習課	担当係	文化・文化財係	担当者
事務事業名	文化財保護事業		事業年度	令和4年度	会計区分	一般会計	
基本政策	1	子育て・教育・学び	事業コード	大 14	予算科目	款	10
主要施策	4	郷土の歴史・文化		中 01		項	06
				小 10		目	03
事務区分	法定受託事務	自治事務	〇	根拠法令	文化財保護法	関連計画	
	法令による義務付け	努力義務+任意		関連例規			

1 事業の取組状況

事業の目的・概要	文化財を適正に管理等するために、文化財保護審議会等の開催や指定団体に補助金を交付する。
主な実施内容	<ul style="list-style-type: none"> 施設の運営管理 文化財保護審議会の開催 文化財整備事業 指定文化財等保存事業補助金交付
実施方法	市が直接実施+補助・負担

2 事業費の状況（令和4年度は実績値、令和5年度は当初予算額）

	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
総事業費（千円）	3,439	5,138			
国・県支出金	0	0			
地方債	0	0			
その他	575	10			
一般財源	2,864	5,128	0	0	0
人件費（千円）	56	0	0	0	0
正(h) ※事業費	30	0	0	0	0
委託(イ) ※事業費	0	0	0	0	0
総事業費+人件費	3,495	5,138	0	0	0
財源「その他」内訳	桃崎浜文化財収蔵庫入館料 2千円 建物災害共済金 573千円				
事業費の主な支出内容	補助金及び負担金81千円 管理・警備委託1,326千円				
単位コスト	算出方法				
	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度

3 指標値の状況

	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
産出指標	名称	指定文化財の看板整備等	指定文化財の看板整備等	指定文化財の看板整備等	
	目標	67件	67件	67件	
	実績	65件			
成果指標	名称	指定文化財の看板整備等	指定文化財の看板整備等	指定文化財の看板整備等	
	目標	1件	1件	1件	
	実績	3件			
	目標比	300%			

4 達成度

達成度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
	○				
◎：達成 ○：概ね達成 △：やや達成していない ×：達成していない					
評価の理由	目標を概ね達成した。				

5 主な取組と実績（令和4年度～）

<ul style="list-style-type: none"> 史跡等の看板を設置した。
--

6 協働の状況

協働の状況	実施
具体的な状況	地域の文化財を地域の方々と整備し、看板を設置した。

7 事業の課題

市内に存在する文化財の洗い出しや、埋もれた文化財などの調査が不十分である。今後ワークショップ等を開催し、地域総がかりで、文化財保護活用計画を作成する必要がある。胎内市が後世にのこすべき文化財を抽出し、既存の文化財、文化施設の活用、整備について計画する必要がある。

8 課題解決に向けた今後の取組

今後の方向性	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
	②				
2019年4月に文化財保護法が改正施行され、市町村ごとに「文化財保存活用地域計画」の作成が求められることとなった。地域計画は、各市町村が目指す目標や中長期的に取り組む具体的な内容を記載した文化財の保存・活用に関する基本的なアクションプランで、法律に位置づけられるものであり、当市としても2023年から策定作業に取り組んでいる。2025年に策定を完了し文化庁の認定を受け、補助金を活用した様々な事業を展開する予定である。					

9 二次評価委員会所見

	今後の方向性				
成果の方向性	拡充	④	②	①	
	維持	⑤	③		
	縮小	⑥			
	休廃止	⑦			
		削減	縮小	維持	拡大
コスト投入の方向性					

事務事業評価シート（評価対象年度：令和4年度事業）

事業コード	140111		担当課	生涯学習課	担当係	文化・文化財係	担当者
事務事業名	史跡整備事業		事業年度	令和4年度		会計区分	一般会計
基本政策	1	子育て・教育・学び	事業コード	大	14	予算科目	10
主要施策	4	郷土の歴史・文化		中	01		06
				小	11		03
事務区分	法定受託事務	自治事務	〇	根拠法令	文化財保護法	関連計画	
	法令による義務付け	努力義務+任意		関連例規			

1 事業の取組状況

事業の目的・概要	国史跡奥山荘城館遺跡及び国史跡城の山古墳等の史跡整備に関するもの。
主な実施内容	史跡城の山古墳土地購入費（9,021千円）、整備基本計画の策定（1,496千円）。史跡整備に関する経費（1,397千円）。
実施方法	市が直接実施

2 事業費の状況（令和4年度は実績値、令和5年度は当初予算額）

	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
総事業費（千円）	865	1,306			
国・県支出金	0	0			
地方債	0	0			
その他	0	0			
一般財源	865	1,306	0	0	0
人件費（千円）	300	0	0	0	0
正(h) ※事業費	160	0	0	0	0
※委託料	0	0	0	0	0
※人件費	0	0	0	0	0
総事業費+人件費	1,165	1,306	0	0	0
財源「その他」内訳					
事業費の主な支出内容	城の山古墳整備委員報償費・旅費 128千円 会計年度職員給与318千円 需要費250千円				
単位コスト	算出方法				
	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
	実績				

3 指標値の状況

	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
産出指標	名称	公有化面積	公有化面積	公有化面積	
	目標	0㎡	0㎡	0㎡	
	実績	0㎡			
成果指標	名称	史跡整備終了地	史跡整備終了地	史跡整備終了地	
	目標	6地点	6地点	6地点	
	実績	6地点			
	目標比	100%			

4 達成度

達成度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
	◎				
◎：達成 ○：概ね達成 △：やや達成していない ×：達成していない					
評価の理由	目標どおり概ね達成できた。				

5 主な取組と実績（令和4年度～）

奥山荘城館遺跡は随時整備を進めてきており、令和4年度からは城の山古墳の史跡整備を整備基本計画に基づき実施する予定である。
--

6 協働の状況

協働の状況	検討中
具体的な状況	令和11年オープン予定の城の山古墳公園について、史跡整備計画に基づき、将来的に古墳祭り等のイベントを地域の方々と協働で行うことを検討する。

7 事業の課題

史跡整備基本計画を推進するために住民ニーズを把握する必要がある。

8 課題解決に向けた今後の取組

今後の方向性	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
	①				
城の山古墳が令和元年2月26日付けで国史跡に指定。今後、市民の意見を聞きながら整備基本計画を推進し、史跡整備を実施していく必要がある。奥山荘城館遺跡については、鳥坂城跡の確認調査が令和2年度で完了したため、計画的に看板等を設置するなど、周知を図る。史跡地購入については、財源の絡みから財政課と協議・検討したい。令和3年度に城の山古墳整備基本計画を策定したので、令和11年の史跡公園オープンに向けて、次年度以降、レーダー測量、発掘調査、実施設計、実施工事など史跡整備に取り掛かる予定。					

9 二次評価委員会所見

今後の方向性		拡充	④	②	①
		維持	⑤	③	⑥
成果の方向性	縮小	⑥	⑦	⑧	⑨
	休廃止	⑦	⑧	⑨	⑩
	削減	⑧	⑨	⑩	⑪
コスト投入の方向性		縮小	維持	拡大	

事務事業評価シート（評価対象年度：令和4年度事業）

事業コード	140112		担当課	生涯学習課	担当係	文化・文化財係	担当者
事務事業名	遺跡発掘調査事業		事業年度	令和4年度	会計区分	一般会計	
基本政策	1	子育て・教育・学び	事業コード	大 14	予算科目	款 10	教育費
主要施策	4	郷土の歴史・文化		中 01		項 06	社会教育費
				小 12		目 03	文化財保護費
事務区分	法定受託事務	○	自治事務	○	根拠法令	文化財保護法	
	法令による義務付け		義務＋任意		関連法規	関連計画	

1 事業の取組状況

事業の目的・概要	緊急調査及び重要遺跡・史跡の発掘調査に関するもの。
主な実施内容	個人住宅・開発にかかわる確認調査を1件実施した。 また、園場整備事業に伴う試掘調査を2件実施し、市内遺跡出土品の再整理作業を行い、年度末に報告書を作成した。
実施方法	

4 達成度

達成度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
	◎				
◎：達成 ○：概ね達成 △：やや達成していない ×：達成していない					
評価の理由	本年度の事業を実施し、報告書を作成した。				

5 主な取組と実績（令和4年度～）

（該当なし）

2 事業費の状況（令和4年度は実績値、令和5年度は当初予算額）

	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
総事業費（千円）	10,853	14,197			
国・県支出金	1,140	3,230			
地方債	0	0			
その他	9,360	5,520			
一般財源	353	5,447	0	0	0
人件費（千円）	1,311	0	0	0	0
正(h) ※事業費	700	0	0	0	0
会計年度 ※任用(h) 費	0	0	0	0	0
総事業費＋人件費	12,164	14,197	0	0	0
財源「その他」内訳	発掘調査負担金 9,360千円				
事業費の主な支出内容	会計年度給与7,379千円 需要費86千円				
単位コスト	算出方法				
	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
実績					

6 協働の状況

協働の状況	検討中
具体的な状況	遺跡現地説明会や体験発掘等について、地域や教職員の方々と協働で実施することを検討中。

7 事業の課題

担当職員が限られていることから、いかに効率的に事業を進めるかが課題である。

3 指標値の状況

	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
産出指標	名称	発掘調査数	発掘調査数	発掘調査数	
	目標	3件	2件	2件	
	実績	4件			
成果指標	名称	報告書作成数	報告書作成数	報告書作成数	
	目標	2件	2件	2件	
	実績	2件			
	目標比	100%			

8 課題解決に向けた今後の取組

今後の方向性	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
	③				
個人住宅建設に伴う確認調査などの小規模な調査が続いているが、県営園場整備事業に伴う大規模な調査が令和3年度以降降まった。文化財保存活用地域計画策定作業も推進するため、計画的に対応できる人材を育成し、文化財保護に遺漏のないように対応する必要がある。 なお、史跡整備に伴う鳥坂城跡の確認調査は、令和2年度で完了し、次年度以降については苔実地区、鍛江地区などの県営園場整備事業に伴う本発掘調査、個人住宅・開発に係わる確認調査を継続的に実施する。					

9 二次評価委員会所見

今後の方向性	成果の方向性	④	②	①
	拡充	×	×	×
	維持	×	⑤	③
	縮小	×	⑥	×
	休廃止	⑦	×	×
削減	×	×	×	
縮小	×	×	×	
維持	×	×	×	
拡大	×	×	×	
コスト投入の方向性				

事務事業評価シート（評価対象年度：令和4年度事業）

事業コード	140310		担当課	商工観光課		担当係	商工振興係		担当者	
事務事業名	中条まつり事業		事業年度	令和4年度		会計区分	一般会計			
基本政策	1	子育て・教育・学び	事業コード	大	14	郷土の歴史・文化	予算科目	款	07	商工費
主要施策	4	郷土の歴史・文化		中	03	歴史・文化資源を生かした地域の活性化		項	01	商工費
				小	10	中条まつり事業		目	02	商工業振興費
事務区分	法定受託事務		自治事務	○	根拠法令					
	法令による義務付け		任意		関連例規	中条まつり補助金交付要綱	関連計画			

1 事業の取組状況

事業の目的・概要	伝統芸能である山車のおおしなどのイベントや露店の円滑な運営による祭りを通じた地域活性化を行う。
主な実施内容	来場者、参加者の安全確保、中条まつり実行委員会への補助、露店商の出店管理
実施方法	市が直接実施＋委託

2 事業費の状況（令和4年度は実績値、令和5年度は当初予算額）

	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
総事業費（千円）	824	7,468			
国・県支出金	0	0			
地方債	0	0			
その他	0	205			
一般財源	824	7,263	0	0	0
人件費（千円）	150	0	0	0	0
正(h) ※事業費	88	0	0	0	0
※事業費	0	0	0	0	0
※事業費	0	0	0	0	0
総事業費＋人件費	974	7,468	0	0	0
財源「その他」内訳					
事業費の主な支出内容	中条まつり事業補助金：753千円 消耗品費：21千円				
単位コスト					
算出方法					
実績	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度

3 指標値の状況

	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
産出指標	名称	露店出店数 (3日間延)	露店出店数 (3日間延)	露店出店者数 (3日間延)	
	目標	300件	300件	300件	
	実績	0			
成果指標	名称	来場者数	来場者数	来場者数	
	目標	30000人	30000人	30000人	
	実績	0			
	目標比	0.0%			

4 達成度

達成度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
	×				
◎：達成 ○：概ね達成 △：やや達成していない ×：達成していない					
評価の理由	新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、前年度に引き続き祭りの関連行事は中止となった。				

5 主な取組と実績（令和4年度～）

・露店出店料金について、近隣市に比べ低い水準となっていたため、露店出店者代表者と話し合い、R2年度から出店料金を値上げすることとしたが、R4年度も新型コロナウイルスの影響を受け露店出店を中止したため、実施とはならなかった。

6 協働の状況

協働の状況	実施
具体的状況	実施主体は中条まつり実行委員会（会長：市長、事務局：中条町商工会）であり、市からの補助金で運営されているが、露店に関する事等は商工観光課が担当しており、協働で開催している。

7 事業の課題

・年々露店の出店者が減少傾向にあったのに加え、コロナ禍で露店出店が中止となっており、再開した際にはさらなる減少が考えられるため、出店者数を確保する方法を考える必要がある。

8 課題解決に向けた今後の取組

今後の方向性	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
	③				
露店商自体が減少傾向にある中で出店の範囲の見直しなどで賑わいを創出する等、開催方法を変えていく必要がある。					

9 二次評価委員会所見

今後の方向性		拡充	④	②	①
		維持	⑤	③	④
成果の方向性	縮小	⑥	⑦	⑧	⑨
	休廃止	⑦	⑧	⑨	⑩
	削減	⑧	⑨	⑩	⑪
コスト投入の方向性		縮小	維持	拡大	

事務事業評価シート（評価対象年度：令和4年度事業）

事業コード	140320		担当課	生涯学習課	担当係	文化・文化財係	担当者			
事務事業名	郷土文化伝習館運営事業		事業年度	令和4年度		会計区分	一般会計			
基本政策	1	子育て・教育・学び	事業コード	大	14	郷土の歴史・文化	予算科目	款	10	教育費
主要施策	4	郷土の歴史・文化		中	03	歴史・文化資源を生かした地域の活性化		項	06	社会教育費
				小	20	郷土文化伝習館運営事業		目	08	郷土文化伝習館費
事務区分	法定受託事務		自治事務	○	根拠法令	文化財保護法				
	法令による義務付け		努力義務+任意		関連例規	黒川郷土文化伝習館設置条例	関連計画			

1 事業の取組状況

事業の目的・概要	郷土文化伝習館の運営管理を行う。
主な実施内容	郷土文化伝習館を開館し、郷土の歴史文化を市内外に紹介した。また小中学校の校外学習、体験学習を通年実施した。併設する美術館と共通券を発行し、共同で企画展、講演会、資料の収集等を行った。
実施方法	市が直接実施

2 事業費の状況（令和4年度は実績値、令和5年度は当初予算額）

	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
総事業費（千円）	2,484	2,844			
国・県支出金	0	0			
地方債	0	0			
その他	161	350			
一般財源	2,323	2,494	0	0	0
人件費（千円）	150	0	0	0	0
正(h) ※事業費	80	0	0	0	0
※会計年度任用(h) 委費	0	0	0	0	0
総事業費+人件費	2,634	2,844	0	0	0
財源「その他」内訳	入館料161千円				
事業費の主な支出内容	会計年度給与1,163千円 警備委託227千円 需要費782千円				
単位コスト	算出方法				
	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度

3 指標値の状況

	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
産出指標	名称	開館日数	開館日数	開館日数	
	目標	210日	210日	210日	
	実績	210日			
成果指標	名称	利用団体数	利用団体数	利用団体数	
	目標	47団体	47団体	47団体	
	実績	44団体			
	目標比	94%			

4 達成度

達成度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
	○				
◎：達成 ○：概ね達成 △：やや達成していない ×：達成していない					
評価の理由	市民をはじめ、小中学校生徒や、市外団体にも郷土の歴史文化を伝えることができた。				

5 主な取組と実績（令和4年度～）

県から譲与された埋蔵文化財や、寄贈民具、美術館所蔵品を加えて定期的に展示替えを実施した。また、小中学校の学習テーマに合わせ、縄文・弥生・民俗の体験展示コーナーを見直した。

6 協働の状況

協働の状況	実施・検討中
具体的な状況	火起こし・弓矢体験のお手伝いをサポーターの方々にしていただいた。

7 事業の課題

平成17年の町村合併以来の歴史資料、考古資料の増加などにより展示構成を見直す時期となっている。また校外学習の利用率が高く、市の学習拠点として明確に位置づけていく必要がある。
--

8 課題解決に向けた今後の取組

今後の方向性	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
	③				
会計年度任用職員、正職員のスキルアップを図り、事業に対する明確な目標を設定する。具体的にはここでしか体験できない昔のくらしや民具を体験するコーナーの整備PR、勾玉づくり、火起こしなど体験学習メニューの充実などを図り積極的にPRする。また美術館と連携した企画展を実施し、利用者数を伸ばしていくこととする。					

9 二次評価委員会所見

	今後の方向性				
成果の方向性	拡充	④	②	①	
	維持	⑤	③		
	縮小	⑥			
	休廃止	⑦			
	削減	縮小	維持	拡大	
	コスト投入の方向性				

事務事業評価シート（評価対象年度：令和4年度事業）

事業コード	140321		担当課	生涯学習課	担当係	文化・文化財係	担当者		
事務事業名	郷土文化保存伝習施設（シンクルトン記念館）運営事業			事業年度	令和4年度		会計区分	一般会計	
基本政策	1	子育て・教育・学び	事業コード	大	14	郷土の歴史・文化	予算科目	10	教育費
主要施策	4	郷土の歴史・文化		中	03	歴史・文化資源を生かした地域の活性化		06	社会教育費
				小	21	郷土文化保存伝習施設（シンクルトン記念館）運営事業		12	郷土文化保存伝習施設費（シンクルトン記念館）
事務区分	法定受託事務		自治事務	○	根拠法令	文化財保護法			
	法令による義務付け		努力義務＋任意		関連例規	郷土文化保存伝習施設設置条例	関連計画		

1 事業の取組状況

事業の目的・概要	シンクルトン記念館の運営管理を行う。
主な実施内容	シンクルトン記念館を開館し、郷土の歴史文化を市内外に紹介した。また小中学校の校外学習、体験学習を通年実施した。黒川燃水祭を通して地域の歴史伝承に貢献した。
実施方法	市が直接実施

2 事業費の状況（令和4年度は実績値、令和5年度は当初予算額）

	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
総事業費（千円）	1,032	1,589			
国・県支出金	0	0			
地方債	0	0			
その他	19	30			
一般財源	1,013	1,559	0	0	0
人件費（千円）	75	0	0	0	0
正(h) ※事業費	40	0	0	0	0
※事業費	0	0	0	0	0
※事業費	0	0	0	0	0
総事業費＋人件費	1,107	1,589	0	0	0
財源「その他」内訳	入館料19千円				
事業費の主な支出内容	警備・浄化槽委託72千円、需要費638千円、借地料54千円				
算出方法					
実績	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度

3 指標値の状況

	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
産出指標	名称	開館日数	開館日数	開館日数	
	目標	10日	15日	20日	
	実績	11日			
成果指標	名称	利用団体数	利用団体数	利用団体数	
	目標	5団体	15団体	15団体	
	実績	5団体			
	目標比	100%			

4 達成度

達成度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
	◎				
評価の理由	◎：達成 ○：概ね達成 △：やや達成していない ×：達成していない 市民をはじめ、市外団体にも郷土の歴史文化を伝えた。				

5 主な取組と実績（令和4年度～）

小中学生にわかりやすいようにパネルなどを増やし展示替えを実施した。油井戸周辺、公園内のフェンス設置、補強などを実施し、体験活動の充実を図った。

6 協働の状況

協働の状況	実施
具体的な状況	地元保存会の方々と黒川燃水祭を協働で実施した。

7 事業の課題

国内でも極めて珍しい施設であり、いかにPRしていくかが課題である。また公園内遊歩道の誘導整備も必要。ボランティアガイドの育成も急務である。

8 課題解決に向けた今後の取組

今後の方向性	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
	③				
利用状況に応じた開館日に見直して効率的な運営を行うことで、今後も経費の削減を図る。予約時のみ開館とするが、土日に集中するため、地元へ管理委託することや市民協働で対応できる体制をつくりたい。本公園のメインである油坪を全面に押し、修学旅行の誘致に務める。また、石油関連企業との事業におけるタイアップを模索していきたい。					

9 二次評価委員会所見

今後の方向性		④	②	①
成果の方向性	拡充	×	×	×
	維持	×	⑤	③
	縮小	×	⑥	×
	休廃止	⑦	×	×
	削減	縮小	維持	拡大
コスト投入の方向性				

事務事業評価シート（評価対象年度：令和4年度事業）

事業コード	140322		担当課	生涯学習課	担当係	文化・文化財係	担当者		
事務事業名	史跡等総合活用事業		事業年度	令和4年度		会計区分	一般会計		
基本政策	1	子育て・教育・学び	事業コード	大	14	予算科目	款	10	教育費
主要施策	4	郷土の歴史・文化		中	03		項	06	社会教育費
				小	22		目	03	文化財保護費
事務区分	法定受託事務	自治事務	〇	根拠法令	文化財保護法		関連計画		
	法令による義務付け	努力義務+任意		関連例規					

1 事業の取組状況

事業の目的・概要	史跡等の活用に関するイベント、学校への出前授業等を行う。
主な実施内容	板額の宴を実施し、歴史講演会等を実施した。また、城の山古墳出土の剣・玉類・工具類・靱蓋を復元した。偉人漫画「板額御前」を制作した
実施方法	市が直接実施+委託

2 事業費の状況（令和4年度は実績値、令和5年度は当初予算額）

	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
総事業費（千円）	7,441	4,512			
国・県支出金	1,500	1,800			
地方債	0	0			
その他	3,000	0			
一般財源	2,941	2,712	0	0	0
人件費（千円）	94	0	0	0	0
正(h) ※事業費	50	0	0	0	0
委託(注) ※事業費	0	0	0	0	0
総事業費+人件費	7,535	4,512	0	0	0
財源「その他」内訳	B&G財団助成金3,000千円				
事業費の主な支出内容	印刷製本費1,479千円 イベント委託費2,498千円 イベント借上料137千円				
算出方法	7,462千円/900人				
実績	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度

3 指標値の状況

	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
産出指標	名称	イベント数	イベント数	イベント数	
	目標	4回	4回	4回	
	実績	3回			
成果指標	名称	イベント・講演会の参加人数	イベント・講演会の参加人数	イベント・講演会の参加人数	
	目標	2,600人	2,600人	2,600人	
	実績	900人			
	目標比	35%			

4 達成度

達成度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
	△				
◎：達成 ○：概ね達成 △：やや達成していない ×：達成していない					
評価の理由	新型コロナウイルス感染症対策を施し、黒川燃水祭、板額の宴を規模を縮小して実施したため、参加者数は減少した。				

5 主な取組と実績（令和4年度～）

教材用ビデオ、復元品を校外授業等で活用することができた。

6 協働の状況

協働の状況	実施
具体的な状況	板額会と協働で偉人漫画の制作および、イベント「板額の宴」を実施した。

7 事業の課題

次世代への継承など。

8 課題解決に向けた今後の取組

今後の方向性	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
	③				
市民協働イベントとしての板額の宴のよりよい継続スタイルを考える。史跡城の山古墳の出土品のレプリカや板額御前の偉人漫画を活用した学校等への出前授業、校外授業を板額会をはじめとする市民団体と連携して実施する。また史跡についての歴史講演会等を実施し、「歴史のまち胎内」を市内外にPRしていく。史跡をより良く知ってもらうため、各施設（胎内市美術館・奥山荘歴史館・黒川郷土文化伝習館）と連携し、史跡と点と点で繋げていきたい。					

9 二次評価委員会所見

今後の方向性	拡充	④	②	①
	維持	⑤	③	
	縮小	⑥		
	休廃止	⑦		
	削減	⑧		
コスト投入の方向性	縮小	維持	拡大	

事務事業評価シート（評価対象年度：令和4年度事業）

事業コード	140323		担当課	生涯学習課	担当係	文化・文化財係	担当者		
事務事業名	奥山荘歴史の広場等運営事業		事業年度	令和4年度		会計区分	一般会計		
基本政策	1	子育て・教育・学び	事業コード	大	14	郷土の歴史・文化	款	10	教育費
主要施策	4	郷土の歴史・文化		中	03	歴史・文化資源を生かした地域の活性化	項目	06	社会教育費
				小	23	奥山荘歴史の広場等運営事業	目	03	文化財保護費
事務区分	法定受託事務		自治事務	○	根拠法令	文化財保護法			
	法令による義務付け		努力義務+任意		関連例規	奥山荘歴史の広場条例	関連計画		

1 事業の取組状況

事業の目的・概要	奥山荘歴史の広場等の運営管理を行う。
主な実施内容	奥山荘歴史館の運営管理を実施し、江上館・坊城館・韋駄天山遺跡等の除草管理・野外トイレ管理等を実施した。
実施方法	市が直接実施

2 事業費の状況（令和4年度は実績値、令和5年度は当初予算額）

	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
総事業費（千円）	2,221	2,867			
国・県支出金	0	0			
地方債	0	0			
その他	40	235			
一般財源	2,181	2,632	0	0	0
人件費（千円）	94	0	0	0	0
正(h) ※事業費	50	0	0	0	0
会計年度任用(h) ※事業費	0	0	0	0	0
総事業費+人件費	2,315	2,867	0	0	0
財源「その他」内訳	入館料19千円 資料販売料21千円				
事業費の主な支出内容	会計年度給与520千円 需要費700千円 警備委託・空調点検委託810千円				
単位コスト	算出方法	入場者一人当たり収支 2,867千円÷年間520人			
	実績	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度

3 指標値の状況

	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
産出指標	名称	開館日数	開館日数	開館日数	
	目標	81日	81日	81日	
	実績	81日			
成果指標	名称	利用団体数	利用団体数	利用団体数	
	目標	12団体	15団体	17団体	
	実績	11団体			
	目標比	91%			

4 達成度

達成度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
	○				
評価の理由	◎：達成 ○：概ね達成 △：やや達成していない ×：達成していない コロナ禍の影響下ではあるが開館日数、団体数ともに目標をほぼ達成した。				

5 主な取組と実績（令和4年度～）

開館日を令和元年度から土日祝日とし、平日は予約制とし、運営費の削減に努めている。
--

6 協働の状況

協働の状況	実施
具体的な状況	地域の方々と広場内の草とり作業を協働で実施した。

7 事業の課題

大きな単発的なイベントだけではなく、いつでも体験できるワークショップの実施なども必要。会計年度任用職員のスキルアップも図る。
--

8 課題解決に向けた今後の取組

今後の方向性	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
	③				
利用状況に応じた開館日に見直して効率的な運営を行うことで、経費の削減を図る。史跡城の山古墳、史跡江上館を市の歴史拠点として価値づけし、学校の授業、校外学習でも活用してもらうよう新たな体験メニューなどを考え積極的にPRを行う。					

9 二次評価委員会所見

今後の方向性	成果の方向性	拡充	維持	縮小	休廃止	削減	縮小	維持	拡大
	④	②	①						
	⑤	③							
	⑥								
	⑦								
コスト投入の方向性									

